

(10) 学校コンサルテーションを通じた自閉症児の障害特性への共通理解に関する研究

医療福祉学研究科医療福祉学専攻修士課程 ○笹部 暁美
医療福祉学研究科 諏訪 利明
医療福祉学部子ども医療福祉学科 重松 孝治

【目的】

TEACCH[®]で実施されている学校コンサルテーションを参考にしたコンサルテーションを実施し、教師のASD児の障害特性の理解の変化を捉える。そして、教師と研究者及び分担研究者との間でASD児の障害特性がどのように共通理解されていくのかについてその課程を検討する。さらに、TEACCH[®]の「学習スタイル」の視点を個別の教育支援計画に盛り込むことでの影響を検討する。

【方法】

通常級に在籍の知的障害を伴わないASDの診断を受けている小学1年生を協力児とし、そのクラス担任を対象者とした。協力児に、PEP-3、CARS2-HFの検査を実施した。対象者には、インタビュー及びコンサルテーションを協力児の行動観察(2回)も含め計6回実施した。個別の教育支援計画作成を依頼した。事前事後のインタビュー及び個別の教育支援計画の比較、コンサルテーション中の発言を通して、検討・分析をおこなった。

【結果】

対象者は、コンサルテーション実施前にもASDの障害特性を漠然と捉えていた。コンサルテーションが進むにつれ、協力児の障害特性について、コミュニケーションの困難さを捉えるなどの発言がみられた。さらに、障害特性から行動特徴を捉える発言があった。個別の教育支援計画作成に関しては、抽象的であった内容がより協力児の特性に沿った具体的なものになった。

【考察】

障害特性の共通理解の過程において、ASDの捉え方について「行動特徴として整理される表現」「問題行動として整理される表現」「障害特性として整理される表現」「学習スタイル(認知特性)として整理される表現」が混同して表現されていることがみられた。この表現を整理することで、ASDの学習スタイル(認知特性)を捉えることができる。このことによって、ASDの視点から障害特性を共通理解できるのではないかと考える。